

4. 地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2020年（令和2年）度】

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、がん薬物療法における最新知識及び臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的とした研修会を実施した。

<岡山大学>

○ 津山洋学資料館訪問

- ・学部生及び大学院生を対象として、津山洋学資料館訪問を実施した。日本初の本格的な化学書「舎密開宗」(chemistryの翻訳)を著した宇田川榕菴の実績や地域の医療活動に尽力した蘭方医たちの資料が展示されている県内の資料館を訪問し、現在も使用されている化学用語、日本の医学・薬学の源泉が岡山にあることを知り、岡山中で薬学を学ぶことを考える機会を提供した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを実施した。人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生する中で、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、一般市民への啓発活動を行った。
- ・漢方薬局も加え東洋医学的観点からの生活習慣指導を行った。

<長崎大学>

○ 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・学部生を対象として、在宅医療・福祉コンソーシアム長崎を実施した。
- ・薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育

体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材養成の拠点作りを目指している事業である。

- ・2019年度は、長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の4つの科目を提供した。
- ・例年、他大学からの履修希望者もいた夏季休暇中に実施予定の実習科目は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で不開講となった。

○ 長崎薬学コンソーシアム

- ・学部生を対象として、長崎薬学コンソーシアムを実施した。薬学教育について、長崎大学薬学部、長崎国際大学薬学部、長崎県福祉保健部、長崎県薬剤師会、長崎市薬剤師会、佐世保市薬剤師会及び長崎県病院薬剤師会が一同に会し、情報交換を行うことにより、長崎県における薬学教育の充実及び発展を図った。
- ・2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で定例会議をオンラインで開催した。